

小学校・道徳の内容項目の解説

個性の伸長

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	-----	
中学年	(5) 自分の特徴に気付き、よい所を伸ばす。	個性の伸長
高学年	(6) 自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	個性の伸長

●解説

関連の説明	個性の伸長を図るために積極的に自分のよさを伸ばす児童を育てようとする内容項目である。主に、第5・6学年の1の(6)と深くかかわっている。
全体的な理解	個性の伸長とは、自分のよさを生かすことであり、自分らしさを発揮しながら調和のとれた自己を形成していくことである。児童が自分らしい生活や生き方について考えを深めていく視点からも、極めて重視されなければならない内容である。また、ここでの特徴とは、他と比べて特に自分の目立つ点であり、長所だけではなく短所も含むものである。したがって、自分の特徴を知るとは、その両面を見いだすことであって、短所や不得意なものを努力によって望ましい方向へ改め、自分のよさを一層伸ばしていくことが大切にされなくてはならない。なお、このような態度は、第1・2学年の段階においても、例えば、勉強や仕事をしっかりと行うことや、よいことを進んで行うことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。
低学年	-----
中学年	この段階において自分の特徴に気付くとは、自分のよい所や悪い所などに気付くことであると考えられる。その上で、よい所をさらに伸ばしていき、自分の個性を伸ばすようにするのである。そのためには、児童が多様な個性や生き方に触れる中で自分の特徴に気付くようにしたり、友達との交流の中で認め合う場をつくったりして、よい所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが求められる。
高学年	この段階においては、自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的にとらえることが必要である。そうすることにより、よい所と悪い所の両面が見えてくる。その際、まず、自分が気付いたよい所を積極的に伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の悪い所などもしっかりと見きわめ、それを課題として改めることが自分を伸ばすために大切であることを理解して、そのように心掛けられるようにすることも重要である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。		向上心・個性の伸長